令和5年度　全国学力･学習状況調査（6年生87名実施）の結果から

我孫子市立高野山小学校
学力向上委員会

国語

〇観点別正答率
・「話すこと・聞くこと」は平均より下回っている。
・「読むこと」の観点についても，平均より下回っている。
・「書くこと」の観点については，平均より上回っている。
〇問題形式ごとの正答率
・「選択式」と「短答式」の正答率は，平均より下回っている。
・「記述式」の正答率については，やや上回っている。

算数

〇観点別正答率
・全ての観点で５ポイント以上全国平均を下回っている。
〇問題形式ごとの正答率
・全ての問題形式で５ポイント以上全国平均を下回っている。

児童質問紙調査

〇「国語への関心等」についての数値が上がっている。「自己有用感」もマイナスではあるが，過年度より上っている。「生活習慣・学習習慣」も向上していることから，教職員が校内で共通理解の基に取り組んでいるからこその結果であると考える。しかし「学習習慣がある」と答えているにもかかわらず，教科調査の計算領域・図形領域と基礎基本が身についていない。

＜結果からわかる成果と課題への取り組み＞　〇…成果　▲…課題

【国語】

「話すこと・聞くこと」

〇国語の学習だけでなく，他教科でも子ども達の対話する場面を設定することで，話し言葉と書き言葉の認識が高まっている。
▲目的や意図に応じ，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめる問題では，無解答率も高く，苦手であることが分かった。互いの立場や意図を明確にしながら，計画的に話し合い，自分の考えをまとめることが乏しいことが原因であろう。
・学習だけでなく，生活場面の中でも，意図的に自分の考えを話す場を設定することで，より力を伸ばしていきたい。

「書くこと」

○図表やグラフ等を用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して答えることができた。

▲問題は，空欄に問題点と解決方法を書き入れて，文章を完成させるものだった。解答の傾向を見てみると，全国より正答率は高いものの，「無解答」も多かった。このことから，聞いたことや経験したことなどを用いることだけでなく，文章の情報を使い，書きまとめることが苦手な児童が多いことがわかる。

＜授業改善＞

・昨年度から言われていることだが，日常的に書く場面を多く設定し，認め承認する場面を多く設けることで，苦手意識を少しずつでも解消していく。

・書くことについても，より具体的なものを書くようにし，交流等を通して，書くことが楽しいと思えるような活動を設定すること。

例）×読んだ後に感想を書きましょう➡○このお話の中で一番好きな場面を書きましょう（理由も）

×書いたものを発表　➡○みんなでノートを持ち寄って，同じ場面の人を見つけ，理由を交流等

「言語事項」

○学年配当表に置いて既習の漢字を使い，言葉を漢字に書きなおすという問題では，７割近くの児童が正答している。

▲言葉を漢字に書きなおす際，漢字が定着しておらず，片方の字しか書けない児童がいる。また無解答の児童も数名いた。

＜授業改善＞

・モジュールの時間を使い，ドリル学習で繰り返し練習させたり，習った漢字を使ってノート整理や新聞をまとめさせたりするなど，繰り返し使う習慣を各教科で取り入れ，環境を整える。練習だけでなく，習熟を図れるように小テストを実施する。

「問題形式」

▲今回のテストでは「無解答」が多かった。問題形式に関係なく，問題内容を読解する力や解決しようとする前向きな力が欠けているのではないかと考える。

・国語だけに関わらず，さまざまな教科で，知識理解の向上を図るため，教科書を読んだり，問題解決学習を通して達成感を味わったりすることが必要になってくる。

【算数】

「数と計算」

○６６÷３の筆算の仕方を説明した図を基に，筆算の商の十の位に当たる式を選ぶことができる。

▲（２位数）÷（１位数）の筆算について，図を基に，各段階の商の意味を考える事が苦手な児童もいる。

＜授業改善＞・友だちの意見を聞き，自分でもう一度説明できるか，授業での繰り返す場面を設定する。

・習得した知識を活用する。発展問題に多く取り組む時間を，授業の中で意図的に設ける。

・授業内の習熟問題だけでなく，繰り返し問題を解き進めるために「計算タイム」を活用して取り組む。

「図形」

○図形を構成する要素に着目して，長方形やひし形の意味や性質，構成の仕方について理解している児童が多い。

○図形を構成する要素に着目して，テープを折るとできる四角形を想起することができる。

▲切って開いた三角形を正三角形にするために，テープを切る時の角の大きさを見つけることが苦手である。

＜授業改善＞・習得した知識を活用する時間を，授業の中で意図的に設ける。

例）図形の情報を基に，作図する練習問題を行う。

（できれば，作図だけでなく，言葉でも説明できるようになど工夫して）

・ 授業の中に，自分の考えを相手にわかりやすく伝える場面を設ける。また，図形の定義を再認識させるため，再度説明させる。

例）どんな図形になるかな？⇒なぜその図形になるのか伝え合いましょう。

小さなことだが，このように相手に伝える習慣をつけることで，説明するための素地を培う。

「変化と関係」

○伴って変わる２つの数量について，表から変化の特徴を読み取り，表の中の知りたい数を求めることができる。

○伴って変わる２つの数量の関係が，比例の関係ではないことを説明するために，表の中の適切な数の組を用いることができる。

▲２つの数字の関係性の，求め方や答えを言葉や式を使い説明することが苦手である。

＜授業改善＞・習得した知識を活用する時間を確保し，授業の中で意図的に設けることが必要。また，生活体験と結び付けた学習にしていく。

例）数量が変わるとそれに関する数値にも変化がおこる。どのように変化するのか具体物を用い関係性を考えさせる。

「データの活用」

○表の意味を理解し，全体の部分の関係に着目し，ある項目に当たる数を求めることができる児童が多い。

○目的に応じて複数の棒グラフから読み取り，見出した違いを言葉や数を用いて記述することができる児童が多い。

＜授業改善＞・算数科だけでなく，資料を整理したり読み取ったりする場面を関連付け指導にあたる。また，資料の必要性を考えさせる意図的な指導を継続して行っていく。

「問題形式」

○記述式の問題の正答率が，全国平均よりも高かった。

▲全国平均より高かったものの，正答率は５割を下回っている。

・昨年度も述べたようにさまざまな教科で，自分の考えや意見を文章化するということが今後の学力向上に必要である。

・授業だけでなく，児童にきちんと自分の考えを説明する場を設ける。

・生活体験と結び付けた問題を解くことにより，自分が体験したことをもとに，根拠をもって学習を進められるようにする。

【児童質問紙・クロス調査から】

・全体的に数値が高まってきている。質問については，全部で４４個あり，学習面・生活面等，多岐に渡る質問項目がある。昨年同様，生活習慣がきちんと成立している児童ほど学力が高くなっている。国語や算数について興味・関心の強い児童ほど，学力が高くなる傾向にある。全校で学習習慣定着を図る高野山メソッドを校内統一で行うことで，学習習慣への意識が高まっていることから，今後も家庭と連携を行い児童の学習習慣の定着に努めていきたい。

・各教科で導入から課題設定へ進む授業の流れを校内で統一して行った。また，校内研修で算数を中心に研修を深め，指導主事からの指導助言を基に職員全体で授業改善に取り組んできた。児童の興味関心を引くよう，生活に根ざした素材を提示し，問題解決していくことで，教科への興味関心を持続させることに繋がっている。また，校内で「読書タイム」の統一や「よむよムラリー」の活動強化などの取り組みが国語への関心につながっているだろう。昨年同様に教科への関心は高まっており，教師の指導の統一化が児童の学習への意欲につながっている。